



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者
 大分県議会・県民クラブ
守永 信幸
 〒870-0022
 大分市大手町3-2-9
 TEL 097-532-4919
 FAX 097-534-6598

人と人がつながる大分県をめざして

2016年第3回定例県議会は、9月7日から9月27日までの会期で開かれました。今定例会では、私も一般質問の機会を得て①農林水産業に対する消費者理解について、②障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり条例にある合理的配慮の普及や鉄道の安全対策等について、③県立精神医療センターについて、④人事委員会勧告についてといった課題を取り上げました。



一般質問に立つ守永信幸

農林水産業への消費者理解

大分県の人口は、何も施策を講じなければ、2040年には95万人代にまで減少すると推計されています。地域に雇用の場が無く、都市部に若者が流出してしまう。結果的に小・中学校が統廃合され、商店街も生き残ることが出来ません。そのような状況を打破するには大分県下のそれぞれの地域で雇用の場が創られる事が重要です。大分では雇用の場として農林水産業を生産性・収益性のある産業としていくことが重要です。そのためには、消費者の皆さんに農林水産業の大切さ等を理解していただく取り組みが重要だと考えます。

県づくり条例」については、もりちゃん通信(第22号)でも触れましたが。障害のある方々への合理的配慮の考え方の普及が肝心となります。さらに、公共交通機関に於ける合理的配慮のあり方については、公共交通の運営主体が、経営の合理化も進めなければならない状況の下で、合理的配慮をどの程度実践できるかという課題もあります。

障害のある人への合理的配慮の普及

障害のある人もない人も心豊かに暮らせる大分

その他に、新たに設置される県立精神医療センターでのスタッフの確保や開設準備段階でのスタッフの研修、公務員給与と民間給与とを比較して較差を是正する人事委員会の役割などについて質問を投げかけました。

憲法に保障される自由の為に

別府警察署が隠しカメラを使って選挙違反の捜査を行った問題も代表質問や一般質問で大きく取り上げられました。隠しカメラの問題は、7月の参議院議員選挙の公示日前に、別府市勤労者福祉会館にビデオカメラを無断で設置し、会館や駐車場に出入りする人物を撮影したというものです。



◀ビデオカメラで盗撮された別府市勤労者福祉会館



▶カメラは敷地内の樹木に設置されていた。

県警は、カメラの設置は、ある捜査のために、特定の人物の動向を探るためのものと説明をしていましたが、後日の説明では、今回の参議院議員選挙で選挙違反の情報を得て捜査を行っていたことを明らかにしました。

許可無く他人の管理地に進入したことは当初から謝罪していましたが、ビデオカメラを使った捜査についての謝罪はありませんでした。県議会での質問等を通じて、カメラの使用が必要性・相当性のないことを認めたものの、体制としてそのような捜査方法に踏み切らせる雰囲気があったのではないかと懸念は残ったままです。私たちの自由な政治活動や思想信条の自由が損なわれるようなことに繋げてはなりません。また、県民の暮らしを守る警察としての信頼回復のために努力を重ねていただきたいものです。

『災害に強い大分県づくり ～肝心なのは人づくり～』

佐伯市における浸水被害

今年台風1号の発生は、7月3日と大変遅かったのですが、上陸した台風の数記録的な数にまで到達しています。9月19日夜間に大分県に最接近した台風16号は、佐伯市内の一部に床上浸水などの被害をもたらしました。

特に佐伯市内では、台風接近前後の激しい降雨によって34地区で床上浸水が65戸、床下浸水が155戸といった被害が発生しました。山が迫る地形の海岸部の集落では、多量の土砂や草木が排水溝を塞いでしまい、排水が出来ず集落が浸水してしまったようです。排水溝からあふれて流れた水は、多量の小石を含んだ土砂で宅地を覆ってしまいました。佐伯市では、市内でボランティアを募って復旧作業を行いました。このような被害を減じるにはどのような整備が必要か検討が必要です。

佐伯市の崖岸地域は、南海トラフ大地震発生時には、10mを超える津波被害も想定されており、大雨による被害などによって避難路が使用できなくなる可能性があります。

地域で暮らし、地域を守る人材の育成

県民クラブの会派で佐伯市内の被災地を視察した際に、消防団をはじめとする大勢の地域の方々が、人海戦術で後かたづけをされていました。被災した方はご自分の家の片づけを中心に、直接被災していない方々が、地域内の水路や土砂に覆われた道などの土砂を取り除く作業をされていました。佐伯市社会福祉協議会では、市内在住の皆さんにボランティアを募っていくとのことでした。地域に暮らし地域を守る人材が、かろうじて残っている状況なの



▲佐伯市蒲江の集落では狭い路地に流入した土砂を人海戦術で片付けていました

でしょうが、その方々の高齢化

が、将来への不安となっている現実をしっかりと見つけ、解決策を講じなければなりません。地域に若い人が家庭を持ち、根付いていける雇用環境を整えていく必要があります。

JRの津波避難誘導訓練

8月20日に、JR九州の主催で津波避難誘導訓練が行われました。佐伯市の日豊本線狩生駅付近で南海トラフ地震による津波を想定し、地震発生直後に緊急停止し、乗客に避難手順を説明をした上で、車外に脱出し、近くの避難所まで避難誘導するという手順です。

私も、現地で避難誘導訓練の様子を視察させて頂きました。列車が予定地点で停止して、乗客が避難を始めるまで約5分ほどだったでしょうか、それでも長い時間が経過するように感じました。津波の襲来を考えたときに、気がでない乗客も出てくると思います。いかに落ち着いて頂き、スムーズな避難に繋げるかが大切です。今回の訓練では、列車が停止してから乗客全員が避難所に到着したのは、32分後のことでした。



◀ 出入り口に腰を掛けて飛び降りる乗客



▲ 取り付けられたはしごで降りる乗客

車いすを使っている方もいたので、声を掛けてみると、「列車を降りるときに負ぶわれて、はしごを降りたが、目線が高くて怖かった」と言っていました。その方は、車いす利用者に扮して訓練に参加した職員でしたが、障がいのある方にも参加して頂き、訓練終了後に参加された方々との意見交換などの工夫も必要ではないかと感じました。参加されていたJRの方は「お客様の協力がないと、乗務員だけでは大変だと感じた」とも言っていました。

東九州道の開通に伴い、観光情報も大分県・宮崎県相互に伝わり、観光による交流の機会が増大しています。JRとしても鉄道利用者の増大に取り組むのですが、乗客が安全に安心して利用できる体制の整備が今こそ必要だと考えます。

自分の居場所の発見！ ～子ども食堂の取り組み～

子ども食堂とは

『子ども食堂』という言葉を目にしたことがあると思います。

ご両親が共働きのため、子どもが夕食を一人で食べなければならなかったり、夏休みなど長期の休みの際に、お昼に一人で食事をするということはあるのではないのでしょうか。お弁当屋さんやコンビニエンスストアなどがあるので、そこで買って食べるということもあると思います。一人っ子であれば、本当に一人っきりで食事することになります。きちんと食べたかどうか気にかかる親御さんも多いと思います。

子ども達に楽しく食事が出る場を提供しようと始められたのが『子ども食堂』です。ここでは、子ども一人でも安心して来ることができるように低価格や無料で食事を提供しています。大分県下では、宇佐市や日田市など7市で12箇所(県社協調べ)の『子ども食堂』が運営されています。

大分県社会福祉協議会での試行

今年の夏休みには、大分市大津町にある大分県総合社会福祉会館でも『大津町だいぶんKITCHEN』が試験的に運営されました。週1回の取り組みですが、朝10時から16時まで子ども達を預かり、お昼にはみんなで楽しく食事をします。食事以外の時間には、ボランティアの方々



◀大津町だいぶんKITCHENの食事風景

▶食事を作るボランティアやスタッフ



一緒に学習をしたり、レクリエーションをして過ごすのです。保護者の皆さんからは、「週に一度でも助かる」という声や「お友達だけでなく、お兄さんやお姉さん、スタッフの皆さん、おじいさん達など違う世代の方々との交流が子ども達にとって為になった」と言う声が挙がっています。



▲食事時間以外は様々なレクリエーションや学習の場も

この取り組みは、子どもの居場所づくりとして企画されました。子ども食堂の中には、貧困家庭の子ども達に食事をきちんと提供できるようにと取り組むグループもあります。が、「そこで食べているから家庭が貧困なんだ」というレッテルが貼られるようでは問題です。県社協の取り組みは、「誰でもおいで」という発想で呼びかけられています。心豊かに子ども達を育てることに貧富の差は関係ありません。

自分の居場所

子ども達を巡る環境は経済の変化に大きく影響されています。ご両親が共働きであったり、母子家庭や父子家庭などであったり、子ども達それぞれの家庭環境は様々ですが、子ども達が自分の居場所を見いだせることが大切なのだと思います。そして貧富に関係なく、子ども達が安心して身を寄せることの出来る場所を提供するという姿勢が、今求められているのではないのでしょうか。

『子ども食堂』については、現時点ではNPOなどのボランティアグループが主体的に取り組んでいるケースが多いのですが、県や各市町村の社会福祉協議会等で各グループの活動や信頼を支える仕組みづくりも必要ではないかと考えます。

また、地域は正に高齢化社会。子ども達の居場所づくりと併せて、高齢者の出番を用意していくことも有意義でしょう。子ども達に限らず多くの方が、自分の居場所を探している時代です。

もりちゃんの足跡



▼8.15 最後の特攻隊の慰霊祭に参加。毎年この日に大洲運動公園で行われています。



▲8.21 大分県消防操法大会。大分県下の各地域から選抜された消防団が操法を競いました。



▲9.10 県民体育大会の総合開会式では、中津北高校の書道部員が華を添えました。

▼10.10 津留地区敬老会に参加。500人近い方々が集い、楽しいひとときを過ごされました。

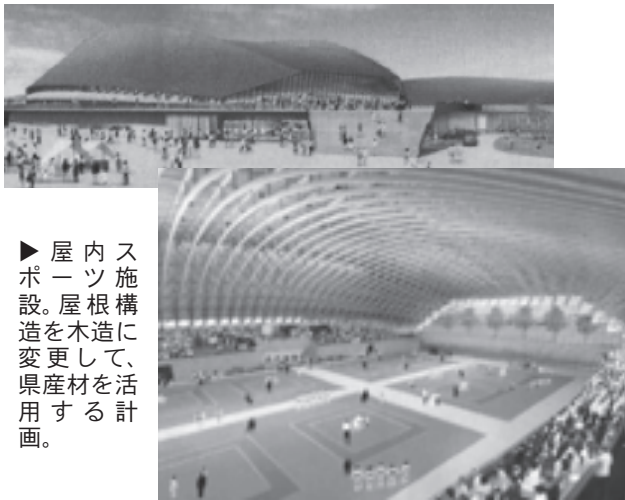


人格形成と愛和のための施設整備を ～室内競技場、動物愛護センター、芸術短期大学～

今回の県議会で、大分・熊本地震からの復旧復興関連予算以外に、県立屋内スポーツ施設や動物愛護センターの建設、県立芸術文化短期大学キャンパス整備などに関わる予算も採択されました。

屋内スポーツ施設

県立屋内スポーツ施設については、大分市松岡にあるサッカー場『だいぎんドーム』に隣接させての建設計画が進められます。この施設は、大規模災害時の活動拠点となる機能を持たせるほか、2019年に予定されているワールドカップ・ラグビーのおもてなし施設としても活用できるように2018年度中に完成させるとしています。



▶ 屋内スポーツ施設。屋根構造を木造に変更して、県産材を活用する計画。

動物愛護センター

動物愛護法の規程により、犬・猫をはじめとするペットを飼の主体終生責任を持って飼養し、むやみに殺処分を行わないように求められています。動物愛護センターは、動物愛護の呼びかけと併せて、どうしても飼いつづけることの出来ない犬や猫を一時的に預かって、新たな飼い主を捜すお手伝いをする施設でもあります。また、犬を連れて行って思いっきり遊ばせることの出来るドッグランなどの機能も整備される予定です。

お知らせ

- ◇常任委員会は、福祉保健生活環境委員会、特別委員会は行財政改革・グローバル特別委員会に所属しています。
- ◇皆様のご要望に応じて、各地域・職場での意見交換にお呼び頂ければ、喜んで参加させていただきます。日程調整のため、ご連絡ください。
- ◇守永後援会会員を常時募集しています。年会費は、3千円です。守永の活動をご支援下さる方、是非ご加入を。

(連絡先：097-532-4919 担当=後藤)



芸文短大のシンボルロードと図書館、右は現況



◀芸術デザイン棟の完成予想図と右は現況

芸文短大のキャンパス整備

県立芸術文化短期大学が、現在の上野丘東に移転してから40年以上が経過しました。施設が手狭だけでなく、音楽ホールは大雨が降ると床に水が溜まってしまう様な状況で大改修が求められていました。公立短期大学で音楽や美術と言った学科を持つ短大は全国的にも大分県が唯一で、多くの学生が県内外から集まり、そして多くの卒業生が県内に定着しているようです。優秀な人材が育つには環境整備は大切です。

人が育つ環境作り

いずれの施設も県が人づくりや心の豊かさを育むために整備するものです。誰もが心豊かに暮らすには、豊かな心を育む環境が整備されることが重要です。もちろん設置する必要性をきちんと議論し、施設がより有効に利用されるよう工夫を凝らさなければならぬのは言うまでもありません。創るだけでなく、使われてこそその施設です。

編集後記

今議会で一般質問に立ったのですが、私の質問の意図だけを巻頭言にまとめました。興味のある方は、県議会のHPを見て頂ければと思います。▶近い将来に発生が予測される南海トラフ地震対策は、何気ない毎日をどう支えるかが問われている課題です。経済的合理性とのバランス感覚が試されています。▶結果的には「人づくり」に行き当たることばかりと感ずります。若い人が定着し、ノビノビと活躍できる大分県づくりが必要です。